

作文コンクールに応募されるみなさまへ

第13回 後藤新平賞（最優秀賞）受賞 たかまつななさんよりメッセージ

たかまつななさん
ピン芸人／お笑いジャーナリスト

プロフィール
フェリス女学院出身のお嬢様芸人として、テレビ・舞台で活動する傍ら、お笑いジャーナリストとして、お笑いを通して社会問題を発信している。18才選挙権を機に、若者と政治の距離を縮めるために、株式会社笑下村塾を設立。



第1回のキーワード「ペンのチカラ」

「私は信じている。ペンの力は大きいと。世界から戦争がなくなると。対話によって平和がもたらされる日が必ず訪れると。」これは、私が高校3年生(2011年)の時に「拓殖大学高校生・留学生作文コンクール」に応募し、「後藤新平賞(最優秀賞)」を受賞した作文の冒頭です。これを機に、私は社会問題に対して自分の考えを発信するようになったわけですが、冒頭のフレーズに込めた信念を今も変わ

らず持ち続けています。
私は、高校生の皆さんに、自分の思いを文章にすることがとても重要だということ、意識してほしいと感じています。
「作文コンクールに参加してみようかな」という気持ち、実際に「作文を書く」という行動力を、あなたが進化していくきっかけにしてほしいのです。
「表現力がないから」「私の気持ちが相手に伝わ

らないかもしれないから」そんな理由で、応募に尻込みする人に、私の作文のフレーズを贈りたいと思います。
「私のペンの力は、ピリョクであるがムリョクではない。深い知識と、濃い経験、熱い思いがあれば、読み手の心の鐘を鳴らすことができるはずだ。」
第2回は、次号7/8発行号です。

第2回のキーワード「情報を入手、知識を増やそう」

作文を書き始める前に、課題(テーマ)に関する情報を入手し、知識を増やしていきましょう。インターネット検索、本や新聞・雑誌の関連記事を読む、テレビのニュースや特集番組を見る、ニュースのアプリを見る、SNSを活用する。高校や学習塾・予備校の先生に質問するのもいいでしょう。
大切なのは、一つの情報源に頼らないこと。そして入手した情報を慎重に扱うこと。私は自分の考え

が偏らないように、賛成の意見にも反対の意見にも耳を傾けることをいつも心がけています。
課題(テーマ)の抱える問題点を整理していくうちに、言いたいこと、感じたこと、書きたいことが必ず浮かび上がってきます。
方向性が決まったら、勇気を持って書き始めましょう。書かないと始まらない。書かないと上手くならない。だからチャレンジしてほしいんです。失敗して

もいいんです。失敗していない人間はつまらないんです。
私も舞台に出て、何度も「すべる」経験をしました。でもその経験があったからこそ、お客様に楽しんでもらえる「笑い」が届けられるようになったのです。
第3回は、次号7/15発行号です。



第3回のキーワード「あなただけにしか書けない文章」

作文を書き進めていく時、自分の体験に基づいた考えは、確かに相手に伝わりやすい。インパクトも与えやすい。しかし、「国際交流」「社会貢献」がテーマになると、「自分は具体的な体験を持っていないので難しいな」と感じる人は多いでしょうね。
でも本当に経験がないのでしょうか。テレビで日本とは異なる文化の中で生活する人々を見たこ

とはありませんか?街中で日本人とは異なる行動パターンの人々を見たことはありませんか?
自分には体験がないと思い込んでしまったら何も浮かばないでしょう。でも頭を振り絞って見つめ直してほしいのです。誰もが「それ私もある」と感じることを書けば、あなたの思いは必ず伝わっていくのです。

「自分にしか書けない文章」は、特別な体験をした人だけが書けるわけではありません。あなた独自の視点や角度でテーマを見つめることが、「あなただけにしか書けない文章」を書く第一歩。そして「それ私もある」と共感してもらえることめざして書き進めていきましょう。
第4回は、7/22号です。

第4回のキーワード「何を伝えたいのか、吟味しよう。」

作文には読み手が存在します。だから読み手をまず退屈させないこと、そして納得・共感し、最終的には感動してもらえるような文章を書く意識も大切になってきます。
小論文・作文の参考書を見ると、「文末表現にバリエーションを」「繰り返し・言い換えなどで強調」「インパクトのあるフレーズを」など、さまざまなテクニック

が紹介されています。確かにそれらが必要なことは、十分わかっています。私は小手先のテクニックより、「読み手に何を伝えたいのかを吟味すること」がいちばん大事だと感じています。まず、読み手に「こう思っほしいなあ」と考えます。それをよりよく伝えるにはどうすればいいのか?テンポをつけるのか?衝撃的な冒頭で心を掴むのか?もっと詳しい説明が必

要なのか?この気持ちがあれば、自然に読み手に伝わる優しい文章に近づいていきます。
中高生に限らず、気持ちの伝達がLINEを中心に「端的に、感覚的に」が主流になっています。しかし時には「明確に!論理的に!」自分の意思を伝えることも重要であり、『作文』はその絶好の機会なのです。
第5回は、次号7/29発行号です。



第5回のキーワード「とことん『なぜ』を深める」

「結論」は作文の命。だから「大学生になったら積極的に国際交流の機会を持ちたい」「ボランティア活動を通じて社会に貢献したい」といったありふれた結論では多くの作文の中に埋もれてしまう可能性があります。さて、どうすればいいのでしょうか。
私が応募するとしたら、まず、「なぜ国際交流の機会を持ちたいのか」「なぜボランティア活動を通じて社会に貢献したいのか」「なぜ今のボランティ

ア活動ではだめなのか」というように、「なぜ」を10回以上繰り返します。辛い作業ですが、この作業からしかオリジナリティは生まれてこないのです。自分しか書けないものだから価値がある。自分しか書けないものだと思うまで、とことん「なぜ」を深めてください。
私からのメッセージも今回が最終回。最後のアドバイスをあなたにお伝えします。

「嘘をつかなくていい。素直に書けばいい。無理しなくていい。どうやったら相手に伝わるか思いやりを持ってください。言葉を粗雑に扱わないでください。自分の言葉に責任を持ってください。どうしたら正確に伝わるのか考えてください。いい文章にたくさん触れてください。」
たかまつななさんのメッセージ(全5回)は、拓殖大学ホームページで紹介中。

当記事は2016年7月
読売中高生新聞(全5回)に掲載しました。

第18回
後藤新平・新渡戸稲造記念

思いが伝わる作文、感動させる作文を書いてみよう

拓殖大学 高校生・留学生作文コンクール

- 募集期間:平成28年 7月1日(金)~9月5日(月)必着
- 応募資格:●高校生(全学年対象) ●高等専門学校生(1~3年生)
※高等学校在学中の留学生は「高校生の部」で応募してください。
●外国人留学生(大学進学を目的とする日本語学校生、留学生別科生等)
- 募集テーマ(いずれか一つを選択)
高校生の部:●私の国際交流体験 ●後藤新平について思うこと
●私ができる社会貢献 ●新渡戸稲造について思うこと
留学生の部:●私の国際交流体験 ●日本に留学して

- 表彰
高校生の部:後藤新平賞(最優秀賞)1点(賞状、奨学金20万円)
読売新聞社賞1点(賞状、奨学金5万円) / 優秀賞4点(賞状、奨学金5万円) / 入賞5点(賞状、奨学金3万円) / 奨励賞30点(賞状、1万円の図書カード)
- 留学生の部:新渡戸稲造賞(最優秀賞)1点(賞状、奨学金20万円)
読売新聞社賞1点(賞状、奨学金5万円) / 優秀賞1点(賞状、奨学金5万円) / 入賞5点(賞状、奨学金3万円) / 奨励賞10点(賞状、1万円の図書カード)
- 入賞者の発表:拓殖大学のホームページに掲載(平成28年10月中旬)

拓殖大学
Takushoku University

商学部・政経学部・外国語学部・国際学部・工学部
お問い合わせ 広報室 TEL:03-3947-7160

【作品送付先】
E-mail:sakubun@ofc.takushoku-u.ac.jp
郵 送:〒101-0054 東京都千代田区
神田錦町3-12-2 KT第2ビル6階
拓殖大学作文コンクール事務局
詳細については拓殖大学ホームページをご覧ください。
<http://www.takushoku-u.ac.jp>

